

佐用町昆虫館開館 10 周年記念誌発行に寄せて

佐用町昆虫館の開館 10 周年を記念して、NPO 法人こどもとむしの会の機関紙である「きべりはむし」の特別記念号を発行することになりました。

佐用町昆虫館は庵途町長を始め、町議会議員および教育委員会の皆様のご理解とご支援を得て、2009 年 4 月に開館しました。開館以来、私ども NPO 法人こどもとむしの会が指定管理者として館の管理・運営に携わっています。開館して間もなく、同年の 8 月 9 日の夜に台風 9 号の影響で、佐用町は未曾有の豪雨により甚大な被害にみまわれました。昆虫館の建物も土石流により 1 メートルもの土砂に埋もれました。再開は不可能かと思えるような被害でしたが、佐用町を始め、多くの方々の惜しみないご助力により、翌年 4 月に再開することができました。

佐用町昆虫館の特徴は、豊かな自然の中で、子供たちが生きた虫を観察したり、採集したりして、自分の目や手で直接自然を感じることができることです。私たちスタッフもできるだけ子供たちに寄り添い、子供たちの目線に立って指導することを心がけています。子供たちがこれほど身近に自然に触れる博物館や昆虫館は他にないと自負しています。リピーターが増え、長く昆虫館にとどまる子供たちがいるのもうれしいことです。私どもはこれからも数少ない自然教育の場を大切にしていくことを願い、活動を続けていく所存です。

機関紙「きべりはむし」は兵庫県に生息する昆虫類の分布や生活史に関する情報を蓄積し、兵庫県の豊かな自然の保全とそこに生きる昆虫類の保護を目的として発行されています。生物多様性の保護がかってないほど世界的な関心を集める昨今ですが、そのためにはまず地域の正確な情報の収集が不可欠です。その意味でも、兵庫県の昆虫多様性の情報誌である「きべりはむし」の役割は今後ますます重要になると思われます。

「きべりはむし」には、法人会員の調査研究の成果を掲載するほか、昆虫に関する子供たちのレポートや作品なども掲載しています。子供たちも参加しやすい機関紙であることを願ってのことです。

NPO 法人こどもとむしの会理事長
佐用町昆虫館館長
内藤 親彦